

# 令和6年度国頭教育事務所指導主事要請訪問要領

国頭教育事務所

## 1 目的

各学校における学習指導に関する専門的事項等について、学校を訪問し指導助言及び支援を行う。

## 2 方針

- (1)学校教育における指導の努力点及び管内の努力事項を踏まえて、指導の充実に努める。
- (2)訪問期間は、原則として6～12月に行い、月曜日は、原則として訪問を行わない日とする。月曜日が休日の週においては、火曜日の午前中も行わない。
- (3)主事要請を行う際の指導案様式は、以下①～②より選択する。
  - ①国頭教育事務所の様式(細案)
  - ②「『問い』が生まれる授業サポートガイド」の単元・授業プランシート※経年研、事務所研修における代表授業及び示範授業、授業力アップ研究会については、細案とする。

## 3 指導主事の要請回数

### (1) 校内研究への要請

- ①校内研究への主事要請は1回～2回とし、授業研究に係る要請とする。  
(1回で2名以上の主事要請も可。)
- ②研究指定校は、発表当日を含めて4回程度とする。(授業研究以外も可)

### (2) 経年研への要請

- ①初任者研修への要請は1回で、9月～12月で、教科・道徳科・学級活動から選択する。初任者研修代表授業者については、代表授業をこの要請に充てることもできる。(1)の要請とは別にする。
- ②教職2年目研修への要請は1回で、9月～12月とする。教科・道徳科・学級活動から選択する。教職2年目研修は、課題研究の検証授業とする。(1)の要請とは別にする。
- ③教職3年目研修への要請は1回で、9月～12月とする。教職3年目研修は、学級活動での要請とし、近隣校でグループを作り、授業研を互見するグループ研とする。(1)の要請とは別にする。  
※第1回目の研修で、日時を調整するため、年度当初の要請訪問計画書(様式1)では要請しない。
- ④教職5年経験者研修は、授業研は2回(教科1回、道徳科・学級活動から1回)とし、指導助言は管理職が行う。ただし、1回は主事要請することも可。(1)の要請と兼ねることができる。
- ⑤中堅教諭等資質向上研修会への要請は2回で、1回は市町村教育委員会指導主事、もう1回は国頭教育事務所指導主事を要請する。期間は9月～12月とし、各教科から1回、道徳科または学級活動から1回とする。どちらを市町村主事・事務所主事にするかは、受講者が選択する。(1)の要請とは別にする。

### (3) 中学校教科会への要請(オンラインで実施)

- ①教科会(5教科)への主事要請を行うことができる。
- ②教科担当(5教科)が一人の学校は、原則1回以上教科の主事要請を行うものとする。

### (4) 市町村教育委員会主催研修会への要請

- ①市町村教育委員会主催の研修会等で、指導主事を要請することができる。

※理論研や授業づくり(教材研究・指導案検討等)、3の(1)以外の校内研授業研については、「協働訪問」で要請することができる。

※主事要請一覧

要請	要請回数	教科・領域	(1)への該当	要請期間	備考
校内研究	1回	教科、道徳科、学級活動から選択	○	6月～ 12月	
初任者 研修	1回	教科、道徳科、学級活動から選択	×	9月～ 12月	初任研代表授業者は、代表授業と兼ねることができる。
教職2年目 研修	1回	教科、道徳科、学級活動から選択	×	9月～ 12月	課題研究の検証授業
教職3年目 研修	1回	学級活動	×	9月～ 12月	近隣校グループによる互見授業 ※期日は第1回目の研修で決定
教職経験5年 経験者研修	管理職 による 助言	教科、道徳科、学級活動から選択	主事要請の場合○	6月～ 12月	原則、 <b>管理職による助言</b> で実施であるが、1回の要請は可とする。
中堅教諭等 資質向上研修	2回	教科から1回 道徳または学級活動から1回	×	9月～ 12月	2回のうち1回は市町村教育委員会主事を要請 中堅研代表授業者、初任研示範授業者は2回のうち1回をそれと兼ねることができる。
中学校教科会 (主要5教科)への 要請 <u>オンライン</u>	任意	教科会	×	5月～ 12月	授業づくり、理論研等
	1回	教科担当が一人の教科会	×	5月～8月	授業づくり、理論研等

## 5 主事要請等に係る提出書類

No.	提出書類	提出先(提出方法・部数)	提出期日
1	<b>様式1【指導主事要請計画書】</b>	学校⇒教育委員会 教育委員会※1⇒国頭教育事務所 (電子データ)	4月25日(木) 5月10日(金)
2	<b>様式2【指導主事要請書】</b> ※主事要請の際は、別紙様式2と指導案の提出	学校⇒教育委員会・国頭教育 事務所(両方へ) (電子データ)	<u>要請日の7日前</u>
3	<b>様式3【校内研要請訪問授業研究会報告書】</b> ※校内研で国頭事務所指導主事を要請した場合	学校⇒国頭教育事務所 (電子データ)	<u>授業研後、10日以内</u> に提出
4	<b>様式4-1</b> 【教職2年目研修 授業研究会の記録】	学校⇒国頭教育事務所 ( <u>公印が押印された正式文書</u> として提出)	<u>授業研後、10日以内</u> に提出
	<b>様式4-2</b> 【教職2年目研修 課題研究報告書】 ※学習指導案(2回分)を添付	学校⇒国頭教育事務所(1部) ( <u>公印が押印された正式文書</u> として提出)	令和7年 2月12日(水)
5	<b>様式5【教職3年目研修 報告書】</b> ※学習指導案を添付	学校⇒国頭教育事務所(1部) ( <u>公印が押印された正式文書</u> として提出)	<u>研修終了後、</u> 10日以内に提出
6	<b>様式6【教職5年経験者研修報告書】</b> ※学習指導案(2回分)を添付	学校⇒国頭教育事務所(1部) ( <u>公印が押印された正式文書</u> として提出)	<u>2回目の授業研後、</u> 10日以内に提出
7	<b>様式7</b> 【経年研:2年・3年・5年研修延期・中断願】※2	学校⇒国頭教育事務所(1部) ( <u>公印が押印された正式文書</u> として提出) ※事由が発生したときは、速やかに事務所長宛に提出 ( <u>継続した延期者の場合も年度毎に要提出</u> )	
8	<b>様式8</b> 【研修欠席届】	学校⇒国頭教育事務所(1部) ( <u>公印が押印された正式文書</u> として提出) ※事由発生後、一週間以内に事務所長宛提出 ※研修当日、欠席事由が発生した場合は、 <u>所属長を通じて電話連絡</u> し、後日欠席届を提出する。	
9	<b>様式9</b> 【市町村教育委員会主催研修会主事要請計画書】	市町村教育委員会⇒ 国頭教育事務所(1部)	<u>5月10日(金)</u>
10.	<b>様式10</b> 【中学校教科会への要請に係る計画書】	学校⇒国頭教育事務所 (電子データ)	<u>要請日の2週間前</u>

※1 市町村教育委員会は、教育事務所の指導主事要請だけを1つのエクセルファイルにまとめて提出する。

ただし、名護市は、小中別に二つのファイルを作成する。(様式1【指導主事要請計画書】について)

※2 初任研、中堅研の「研修欠席届」・「研修延期・中断願」は別様式になります。詳しくは各研修の「手引」をご参照ください。

様式1 (令和6年度指導主事要請計画書)

学校名( )

記載者名( )

市町村	学校名	授業者 提案者	希望月日	曜日	午前 午後	教科 領域	学年	単元名 研修内容	事務所主事	委員会主事	経年研 ステージ	備考
(例)	国頭村	やんばる中学校	山原太郎	〇月〇日	水	午後	中2	世界の諸地域	仲宗根 卓		中堅研	全体(校内研)
(例)	名護市	やんばる小学校	国頭花子	〇月〇日	金	午後	小5	割合		安田ひとみ	充実ステージ	教科会(3名)
(例)	東村	やんばる小中学校		〇月〇日	水	午前	小4	ごんぎつね	高良 車		充実ステージ	協働訪問での授業研究会(全体)

事務所指導主事、市町村指導主事のどちらか1人を記載する。

### 小・中学校へ【提出前に要確認】

- ☐ 各学校1回の要請が入っているか〔要請訪問要領3(1)〕
- ☐ 経年研の要請が入っているか〔要請訪問要領3(2)〕
- 初任研(1回)、2年研(1回)、中堅研(2回)
- ※3年研は第1回目の研修で調整するため本計画書では要請しない。
- ※5年研は原則、管理職による助言だが、1回は可。校内研〔要請訪問要領3(1)〕と兼ねることができる。
- ※中堅研の要請は1回は事務所主事、1回は委員会主事を要請する。
- ☐ 中学校の5教科担当1人配置校の教科会の要請が入っているか。〔要請訪問要領3(3)〕
- ☐ 協働訪問として行う授業研究会、理論研修が入っているか。〔協働訪問要領5(1)(2)〕(本冊子R40)

### 市町村教育委員会へ【提出前に要確認】

- ☐ 各学校1回の要請が入っているか〔要請訪問要領3(1)〕
- ☐ 経年研の要請が入っているか〔要請訪問要領3(2)〕
- ☐ 中学校の5教科担当1人配置校の教科会の要請が入っているか。〔要請訪問要領3(3)〕
- ☐ 事務所指導主事を要請する市町村主催研修が入っているか。〔要請訪問要領3(4)〕

- ☐ 管下の小・中学校の要請計画書を1つのエクセルファイルに取りまとめて、事務所担当へ提出
- ※名護市は小中別で取りまとめ
- ☐ 事務所主事の要請のみを提出する。※委員会主事への要請は除く

#### ★備考【記載内容】

①校内研(全体・学年別等)  
( )内は持ち方を記入

②教科会(参加人数)

※詳細については要請日の2週間前までに様式10にまとめて提出

③〇〇市町村主催研修

④協働訪問としての授業研究会、理論研修も年度当初で要請する。

例:協働訪問での授業研究会  
:協働訪問での理論研修

#### ★経年研・ステージについて

①経年研に係る授業研の場合

・初任研、2年研、5年研、中堅研を選択する。

※3年研は6月の研修会後に決定するため、記載しない。

②経年研以外の場合

・ステージを選択する。

※県育成指標(R4年4月改定)

基礎ステージ(2~4年目)

充実ステージ(5~9年目)

発展ステージ(10~17年目前後)

様式2（令和6年度用指導主事要請書）

市町村教育委員会教育長 殿  
国頭教育事務所長 殿

第 号  
令和6年 月 日

〇〇〇立〇 学校  
校 長 〇〇 〇〇  
(公印省略)

指 導 主 事 の 要 請 に つ い て

みだしのことについて、下記のとおり要請します。

記

- 1 日 時 令和6年〇〇月〇〇日( 〇 ) 〇〇:〇〇 ～ 〇〇:〇〇  
参加人数( )名 ※指導主事等を除く

2 指導主事(補)名 〇 〇 〇 〇

3 校内研修テーマ・研修事項等

4 〇学年〇組 授業者 ( ) ※育成指標ステージ〔 〕ステージ

5 当日の日程(全体会, 教科会等の別も記載する)
- 採用ステージ (1年目)

基礎ステージ (2～4年目)

充実ステージ (5～9年目)

発展ステージ (10～17年目)

指導ステージ (18年目以降)

(例)	
14:00～14:50 (50分)	研究授業
14:50～15:10 (20分)	授業研究会準備
15:10～15:20 (10分)	授業者の振り返り
15:20～16:10 (50分)	グループ協議
16:10～16:20 (10分)	発表
16:25～16:40 (15分)	指導助言
16:40～16:45 ( 5分)	

※各学校は、要請日の7日前までに「学習指導案」を添えて教育委員会教育長及び国頭教育事務所長宛提出する。

※授業開始時刻、参加人数等記載漏れのないようお願いいたします。

## 令和6年度 要請訪問授業研究会報告書

学校名		記載者	
-----	--	-----	--

### 1 研究授業、研究協議へ向けた取組の成果と課題、対応策

### 2 研究協議や指導助言を受け、今後の質的授業改善・学校改善につなげたいこと

★沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡの3つの視点  
視点1＜自己肯定感の高まり＞  
「児童生徒が、自分のよさや可能性を認識すること」  
視点2＜学び・育ちの実感＞  
「児童生徒が、学ぶことの意義や価値を実感し、資質・能力を伸ばすこと」  
視点3＜組織的な関わり＞  
「各学校が、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」

※A4一枚でまとめ、授業研終了後10日以内に要請した指導主事宛にメールで提出してください。

※校内研主任が記入をお願いします（校内研として、国頭教育事務所指導主事を要請した場合のみ提出）。

※校長の承認を得たうえで提出してください。

※授業者が5年目研対象者の場合は、本報告書と「5年目研修報告書」（授業者作成）を提出してください。

令和6年度 教職2年目研修報告書 【一課題研究一検証授業等】			
学 校 名		氏 名	
教科・領域名		指導主事名	
研究テーマ			
自己目標			
1 校内研修実施内容			
	期日	研修内容等	指導者等
2 1回目の検証授業研（5月～7月）後の新たな課題等			
3 2回目の検証授業（8月～12月）実施に向けた改善点			
4 2回目の検証授業後のふりかえり、助言等			
教頭名		印	校長名
			印

※報告書は2回目の検証研究会後10日以内に国頭教育事務所へ提出する。

学校名	氏名	校種 担当学年	○学校 ○年	研究教科・領域	教科（      ） 道徳 ・ 特別活動
-----	----	------------	-----------	---------	----------------------

Ⅰ

初任者研修を踏まえた振り返り  
< 自己の課題 >

○○

研究テーマ及び自己目標

【研究テーマ】

【自己目標】

児童生徒の実態から特に育成すべき資質・能力

学校の目指す児童生徒の姿

研究テーママ

自己目標の達成状況

100

Ⅱ

「第1回検証授業のまとめ」  
[○月○日（○）実施]

○○

自己目標達成のための方策

Ⅲ

「第2回検証授業のまとめ」  
[○月○日（○）実施]

○○

自己目標の達成状況

100

Ⅳ

次年度の授業実践向上に向けての方策

校長所見

校長名

印



様式5

令和5年度 教職3年目研修報告書			
学 校 名		氏 名	
教科・領域名	特別活動(学級活動)	担当主事名	
議題・題材名			
1 校内研修実施内容			
月 日	研修内容	指導者	
2 研究授業後の振り返り			
3 グループ研究授業研の参観者の意見・感想			
4 グループ研究授業研の指導助言			
5 グループ協議・指導助言を受けての今後の改善点			
教頭名		印 校長名	印

※報告書は授業研究会後 10 日以内に、国頭教育事務所へ提出してください。

令和6年度 教職5年経験者研修報告書					
学 校 名		氏 名			
研 修 月 日 (研究授業実施日)	第1回 令和      年      月      日 (    ) 第2回 令和      年      月      日 (    )				
教科・領域名	第1回 (                  ) 第2回 (                  )	指導助言者	1回目 2回目		
1 研究授業（第1回）のふりかえり、助言等					
2 研究授業（第2回）のふりかえり、助言等					
3 これからの目標（5～9年目【充実ステージ】、10～17年目【発展ステージ】に向けてのキャリアプラン）					
① 授業実践					
② 生徒指導					
③ 学校運営					
教頭名		印	校長名		印

※報告書は2回目の研究授業後10日以内に国頭教育事務所へ提出する。(指導案2回分添付)

第 号  
令和 年 月 日

国頭教育事務所長 殿

○○○立 学校  
校 長 ○○ ○○ 印

( ) 研修の延期・中断願いについて

みだしのことについて、本校教諭\_\_\_\_\_は、下記により（ ）研修を延期・中断していただきますようお願いします。

## 記

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| 1 種 類                      | <u>イ. 延 期                      ロ. 中 断</u>          |
| 2 延期・中断期間予定                | <u>令和    年    月    日    ～    令和    年    月    日</u> |
| 3 研修日及び内容                  |  |
| 4 延期を申し出る事由                |  |
| 5 その他(必要に応じて事由に関する資料を添付する) |  |

※研修が困難な事由が発生したときは、すみやかに国頭教育事務所長あて1部提出してください。

第 号  
令和 年 月 日

国頭教育事務所長 殿

〇〇〇立 学校  
校 長 〇〇 〇〇 印

研 修 欠 席 届

下記の事由により、本校職員が研修を欠席しますのでお届けします。

記

- 1 氏 名
- 2 研 修 名
- 3 研修場所
- 4 欠席期間
- 5 事 由

※事由に関する資料があれば添付すること。  
※研修当日、欠席事由が生じた時は、すみやかに所属長を通じて電話連絡をし、後日欠席届を提出する。

## 市町村教育委員会主催研修会授業計画書

1	市町村教育委員会名	
2	研 修 会 名	
3	期 日	令和 6 年 ( ) 月 ( ) 日 ( ) 曜日 ( 午前 午後 )
4	学 校 名	
5	授 業 者 名	
6	教科・領域名	
7	学 年	
8	単元・題材名	※未定でもよい。
9	要請指導主事名	

- ※ 要請回数一回につき一枚作成する。
- ※ 「8 単元・題材名」については未定でも良い。
- ※ 5 月 1 0 日（金）までに国頭教育事務所へ電子データで提出する。
- ※ 期日の午前、午後のいずれかに○をしてください。

中学校教科会への要請に係る計画書

1	学 校 名	中学校
2	期 日	令和 6 年            月            日    (       )
3	教 科	
4	参加人数	名
5	内 容	○教科会で話したい内容についてお書きください。 (例 授業づくり、理論研修、その他)
6	連絡事項 (日程等)	

- ※ 要請回数 1 回につき 1 枚作成する。
- ※ 要請日の 2 週間前までに要請する指導主事宛に電子データで提出する。
- ※ 他校の教科担当に参加を呼び掛けてもよい。

第〇学年      〇〇科学習指導案

令和〇年〇〇月〇〇日〇校時  
〇年〇組    〇〇名  
授業者    〇〇    〇〇

【年間指導計画の位置付け    〇〇学年    〇〇月計画    P (〇〇) 】

1 単元名

〇教科によって題材名となる場合もある。教材名を記述してもよい。

2 単元目標

〇学習指導要領から、本単元での到達目標を明記する「何を学ばせたいのか」、「どのような資質・能力を育てたいのか」を具体的に記述する。  
〇教科によっては観点別に記述してよい。

3 単元について

(1) 教材観

〇学習指導要領から本単元に係る目標や内容に即し、教材の持つ価値や活用する理由を述べ、児童生徒の変容の期待について記述する。他の単元との関連や系統性も記述する。  
〇教材の分析や素材の魅力について記述する。

(2) 児童（生徒）観

〇既習事項の定着状況や事前テスト（全国学力・学習状況調査、沖縄県学力到達度調査、沖縄県学力定着状況調査、沖縄県児童生徒質問紙調査等含む）、評価やアンケートの分析した実態や、分析からの課題に現在どう取り組んでいるかを記述する。  
〇数値で表されるものは、できるだけ数値で記述する。

(3) 指導観

〇学習指導要領解説を読み込んだ上で、「教材観・児童観（生徒観）」を踏まえ、**単元全体及び本時の内容**をどのように指導していくかを具体的に記述する。  
〇児童（生徒）理解を基盤とした学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりが大切である。特に本単元で**生徒指導の4つのポイントを意識**する学習活動、指導について記述する。  
【自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成】

(4) 校内研修テーマとの関わり    （2年研、中堅研については、個人のテーマとの関わりを記述する。）

〇本単元の授業を通して、どのように校内研修のテーマに迫っていくか、児童生徒にどのような変容を期待するのかを具体的に記述する。

(5) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<div>〇学習指導要領の内容や『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』等を活用する。 〇単元目標との整合性を図る。「B：おおむね満足できる状況」の記述にする。</div>		

## (6) 指導と評価の計画 (○時間)

時間	◇ねらい ○学習活動	重点	記録	評価規準〈評価方法〉
	「知識・技能」は「知」、「思考・判断・表現」は「思」、「主体的に学習に取り組む態度」は「態」	知 思	○	○記録に残す評価の場合に「○」とする。

○『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校・中学校）』を参考に、各教科・領域に合わせて指導と評価の計画を作成する。（本時については太枠で囲む。）

○評価場面を精選し、単元のまとまりを意識した評価規準（指導に生かす評価〔学習状況の把握等〕・記録に残す評価〔全員を記録し評定にいかす評価〕にする。また「B：おおむね満足できる状況」の記述にする。

○記録の欄に「○」が付いてない授業においても、教師が児童生徒の学習状況を把握し、指導の改善に生かすことが重要である。

## 4 本時の学習【○／●時間】

## (1) 本時の目標（本時のねらい）

- 単元の目標を踏まえ、本時の具体的な目標を記述する。
- 本時の学習を通して育成する資質や能力について明記し、目指す児童生徒像を示す。

## (2) 展開

	学習内容・活動 (発問含む)	予想される子供の姿及び教師の手立て (個への具体的な働きかけも記述する)	評価規準【観点】(方法)
導入 ○分	【前時の学習の確認】前時の復習や本時で活用する事項の確認など  めあてや目標 身に付けさせたい力を踏まえた「めあて」の設定・提示 学習者にとって追究したい価値ある課題の設定		「『問い』が生まれる授業サポートガイド」p8～9を参考に、めあてを設定・提示する。
展開 ○分	【思考させる工夫】 発問の工夫・学習形態（一人、ペア、グループ、一斉）の工夫・言語活動の工夫等	・ <u>個への手立ても具体的に記述する。</u>	・ <u>評価規準【観点】(方法)</u> を記述する。
終末 ○分	「めあて」に正対した「まとめ」 「ふり返し」をする。  【めあてがどれくらい達成できたか振り返り、学びを実感させる工夫】 【次時の予告】	「『問い』が生まれる授業サポートガイド」p8～9を参考に、まとめ、振り返りを行う。子どもによるまとめの例を記述する。	

## (3) 板書計画

- (2)の展開と重複する所が多い場合は、なくてもよい。
- 板書計画の画像の挿入、または別紙での提示でもよい。



## 第〇学年 国語科学習指導案

令和〇年〇〇月〇〇日〇校時  
 〇〇立〇〇〇学校  
 〇年〇組 計〇〇名  
 授業者 〇〇 〇〇

## 【年間指導計画の位置付け 〇〇学年 〇〇月計画 P (〇〇)】

児童生徒の主体性を引き出すような表現にするとよい。

- 1 単元名 ①新聞の社説を読み比べ、書き手の工夫について評価する。  
 ～文章の構成や展開、表現の仕方について自分の考えをまとめる～

○「単元名」は、単元を通して行う言語活動が分かるとともに、身に付けさせたい資質・能力（指導事項）がわかる表記にする。

## 2 単元目標

※[知識・技能][思考力・判断力・表現力]は、指導事項の文末を「～することができる。」とする。  
 ※[学びに向かう力、人間性等]は、各学年の目標の「言葉がもつ～伝えようとする。」とする。（全ての単元において）

## 3 本単元における言語活動

- ①新聞の社説を読み比べ、書き手の工夫について交流・検討し、評価する。（関連：言語活動例ア）

相手や目的を明確にしておくことが大切。児童生徒が行う言語活動を教師が前もって行い、指導と評価の計画にいかしたり、児童・生徒に学習の見通しを持たせるため提示したりする。

## 4 単元について

## (1) 教材観

- 本単元で目指す資質・能力について、言語活動を通して、どのように身に付けさせていくのかを明記する。（言葉による見方・考え方を働かせる場面・試行錯誤する場面をどう仕組むのか）  
 ○学校の実態に即した年間計画上の位置づけ、領域の指導事項の系統を意識する。

## (2) 児童（生徒）観

- 諸調査等の結果を踏まえた本単元の内容に係る実態及び学習後の変化の見通しを明記する。  
 ※実態については、数値等を用いて具体的に示す。

## (3) 指導観

- 学習指導要領解説を読み込んだ上で、「教材観・児童観（生徒観）」を踏まえ、単元全体及び本時の内容をどのように指導していくかを具体的に記述する。  
 ○児童（生徒）理解を基盤とした学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりが大切である。特に本単元で生徒指導の4つのポイントを意識する学習活動、指導について記述する。  
 【自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成】

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
該当する指導事項を記載し、文末を「～している」とする。	文頭に当該単元における指導事項について、「（領域名）において、」と明記し、以下、指導事項を記載して文末を「～している。」とする。	※作成にあたっては、「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料小・中 P31～33」を参照

単元目標に対応するように評価基準を設定する。

主体的に学習に取り組む態度については、

① 知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面

② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

という双方を適切に評価できる評価基準を作成する。文末は「～しようとしている」とする。

## 6 単元の指導と評価の計画（全〇時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
○	児童生徒の活動を具体的に記す。	資質能力を育むために必要な支援を具体的に記す。	「単元の評価規準」について、評価する場面と評価方法及び(B)の姿を具体的に示す。
○	※児童生徒にとって単元のゴールに向かうために必要感のある課題解決の過程になるようにする。		
○	(例：～について話し合う。 ～を書く。Etc.)		

※教科の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元を見通しながら評価の場面や方法を工夫して学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにする。  
 ※記録に残す評価を記載する。(指導に生かす評価のみの場面は空欄になる。)  
 ※「主体的に学習に取り組む態度」の評価は2時間目以降に行う。

## 7 本時の学習【〇／〇時間】

### (1) 本時の目標（本時のねらい）

- 単元の目標を踏まえ、本時の具体的な目標を児童生徒の行動目標で書く。
- 「本時の目標」、「単元の評価規準」との整合性を図ること。

### (2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
導入 〇分	児童生徒の立場で書く  前時のふり返り、本時のめあて、学習活動について確認する	指導者の立場で書く	
展開 〇分	・具体的活動内容 ・言語活動 ・形態等	・教師の発問 ・教師の具体的な手立て ・予想される反応 ・形態等  ※Cへの支援・手立てを明記する。	※Bと判断される状況を、具体的な児童生徒の姿で記す。 ※評価対象を明記する。 ※記録に残す評価を行う時間がわかるように記載する。
終末 〇分	※学習のふり返りを行うとともに、次時への見通しと意欲付けを図ること。 (ノートや端末などの手段、内容等について、意図のある工夫を・・・)		

## 8 板書計画

- 児童生徒の思考過程に沿った構造的な板書にする。(写真も可、また別紙で大きく示しもよい。)

## 9 参考文献

- 参考にした文献・資料等があれば記載する

# 第〇学年 道徳科学習指導案

令和〇〇年〇〇月〇〇日〇校時  
 〇 年 〇 組 計 〇〇 名  
 授業者 〇〇 〇〇

## 【第〇学年年間指導計画 P.〇〇 〇〇月計画】

### 1 主題名「                    」 内容項目〇〔                    〕 （例）B〔友情、信頼〕

- \*原則として、年間指導計画における主題名を記述する。
- \*主題名は、教師の思いが込められた授業のテーマ、児童（生徒）にとっては学びの指針となるもの。  
 → 指導者がねらいを焦点化できるような簡潔な表現、児童（生徒）には興味深く親しまれるような表現を工夫する。

### 2 教材名「                    」 出典（                    ）

- \*出版元、書名、学年など・読み物資料以外の資料の場合でも出典が示されているか。

### 3 指導観

#### (1) 価値観

〇ねらいとする道徳的価値の捉えや考え方を学習指導要領に基づき記述する。

- \*発達に応じた内容項目のポイントを記述する。
- \*ねらいとする道徳的価値に関する授業者の指導のポイントを明記する。

内容項目（価値）の捉え方等については、  
 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P20～25 参照 \*内容項目（価値）については、P26～P71 参照  
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P19～22 参照 \*内容項目（価値）については、P24～P69 参照

#### (2) 児童観（生徒観）

〇明確な価値観を基に子ども達にどのように指導し、子ども達が考えることを記述する。

- \*ねらいとする道徳的価値に関する児童（生徒）の実態（これまでの学びと現状）、良さや可能性を把握して記述する。
- \*ねらいとする道徳的価値をもとに、育てたい子ども像を記述する。
- \*道徳の時間以外での児童（生徒）の状況を踏まえ、どの部分からねらいとする道徳的価値に関する指導を行うのか、指導の方向性を明らかに記述する。
- \*補充、深化、統合の方向性が明らかになっているか。

#### (3) 教材観

〇授業者の明確な価値観、育てたい子ども像を基に、資料の活用の仕方を記述する。

- \*教材のあらすじの紹介のみで終わらない。
- \*教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法等を記述する。

学習指導案作成の主な手順については、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P80～83 参照  
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P78～81 参照

### 4 本時の指導

#### (1) ねらい

〇「（活動・思考）することを通して判断力を育てる」、「～心情を育てる」、「～実践意欲と態度を育てる」

- \*ねらいとする道徳的価値の諸要素を端的に記述する。
- \*内容項目との整合を図る。  
 (例) 互いを認め、助け合おうとする心情を育てる。

#### (2) 授業の工夫

\*教材提示の工夫、発問の工夫、話し合いの工夫、書く活動の工夫、表現活動の工夫、板書を生かす工夫、説話の工夫

多様な考え方を生かすための言語活動については、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P84～86 参照  
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P83～85 参照

#### (3) 展開

道徳科の特質を生かした学習指導、学習指導の多様な展開については、  
 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P80～83 参照、中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P80～81 参照

段階		学習活動	主な発問	予想される児童生徒の 発言や心の動き	◆指導上の留意点 ◎評価
導入  (分)		<div>* 主題に対する児童（生徒）の興味や関心を高め、学習意欲を喚起して、ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図る学習活動を記述する。</div>			<div>◆指導上の留意点</div> <div>次のような指導等の留意点を必要に応じて記述する。</div> <div><input type="checkbox"/> 資料提示</div> <div><input type="checkbox"/> 発問</div> <div><input type="checkbox"/> 話し合い</div> <div><input type="checkbox"/> 書く活動</div> <div><input type="checkbox"/> 動作化・役割演技等の表現活動</div> <div><input type="checkbox"/> 板書の工夫</div> <div><input type="checkbox"/> 説話</div> <div><input type="checkbox"/> ICT 機器活用</div> <div><input type="checkbox"/> 学習形態の工夫等</div> <div>◎評価</div> <div>こどもの学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉える視点を記述する。</div>
展開	前	<div>* 教材を中心とした学習活動</div> <div>教材に描かれている道徳的価値に対する児童（生徒）一人一人の感じ方や考え方から問題を追究する学習活動を記述する。</div>			
		<div>* <div>中心発問</div> やその前後の補助発問等、それに対する予想される児童（生徒）の発言や反応や心の動きをできるだけ具体的に記述する。中心発問は <div></div> で囲む。</div> <div>* 発問の工夫については、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P.81 参照 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P.81 参照</div>			
	後	<div>* 道徳的価値の一般化</div> <div>ねらいとする道徳的価値を自分のこととしてとらえ、これからの自己の生き方について考えを深めていく学習活動を記述する。</div>			
終末  (分)		<div>* 学習を通して、主題となる道徳的価値について考えたことなどを繰り返す学習活動を記述する。</div> <div>学習を通して考えたことや気付いたことなどを確かめる。学んだことを更に深く心にとどめる。</div> <div>これからの思いや課題について考える。…</div>			

#### (4) 評価の視点

○子どもの学習状況を見取る視点を記述する。

(例) 互いを認め、助け合おうとするよさについて、自分自身のことと関係づけて考えているかを振り返りの記述から見取る。

道徳科の評価については、小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P.109～P.116 参照  
中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P.111～P.118 参照

#### (5) 板書計画

- \* ねらいをふまえた上で、指導の意図や教材の内容の整理、児童生徒の多様な考え方を視覚的に整理する。
- \* 教材のあらすじや登場人物の心情理解のみの板書は避ける。
- \* 別紙に大きく表示してもよい。

### 5 他の教育活動等との関連

○本時で学んだこと道徳科以外の教育活動との関わりを記述する。

\* 他教科や特別活動等との関連を記述する。（別葉）

### 6 参考資料 参考にした文献等があれば記述する。

第〇学年 学級活動学習指導案

令和〇年〇月〇日〇校時  
〇〇〇立〇〇〇学校  
〇 年 〇 組 〇 名  
授業者 〇〇〇 〇〇〇

【年間指導計画の位置付け 〇学年 〇月計画 P. 〇】

1 議題「 内容(1) 」

学習指導要領の位置づけを記入

2 議題について

(1) 児童(生徒)の実態

〇アンケート等を実施し、児童生徒の学級生活における実態や学級活動における実態などについて記入する。

(2) 議題選定の理由

〇議題が選定された背景及びこの議題について話し合うことで、学級や学校生活がどのように向上し、児童生徒一人一人にどのような態度が身に付くことが期待できるか、教師の願いや指導観などを記述する。

(3) 校内研修テーマとの関わり (2年研、中堅研については個人のテーマとの関わりを記述する)

〇研究テーマへ本時の授業を通してどのように迫っていくのかを記述する。

3 学級活動(1)の評価規準

〇小学校は低・中・高の2学年ごと、中学校は学校として評価規準を設定する。

第〇学年及び第〇学年の評価規準 (←小学校)

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話合いの活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
※各学校の評価の観点・評価規準を記入する。 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参照		

4 事前の活動(本時に至るまでの活動の流れ)

学級会に向けた計画委員会(中学校：企画委員会)及び学級全員が行う準備の計画を記述する。

日時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	◎めざす児童(生徒)の姿(観点)【評価方法】
〇月〇日(△) 【帰りの会】	(計画委員会)	〈計画委員会が行う準備計画〉 ①議題の選定 ②活動計画・学級会ノート作成 ③学級活動コーナーへの掲示、 ④短冊の作成・掲示、 ⑤学級会での役割分担、 ⑥進行の確認 などの活動が考えられます。	
〇月〇日(△) 放課後			
〇月〇日(△) 【帰りの会】	(学級全員)	〈学級全員が行う準備計画〉 ① 議題の決定 ② 学級会ノートへの記入 などの活動が考えられます。	

## 5 本時の指導と児童生徒の活動

## (1) 本時のねらい

議題選定理由を踏まえ、本時の指導内容や教師の指導の意図を具体的に記述する。

## (2) 本時の展開 (記入例)

過程	児童(生徒)の活動	指導上の留意点 (教師の手立て)	◎目指す児童生徒の姿 (評価の観点) 【評価方法】
導入 ○分	1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認 4 提案理由の確認 5 決まっていることの確認 6 話合いのめあての確認 7 教師の話(必要に応じて)		◎目指す児童生徒の姿
展開 ○分	8 話合い (1)話し合うこと① 「○○○○○○○○○」  (2)話し合うこと② 「○○○○○○○○○」  「話し合うこと」は、学級の実態や議題の内容、タイムマネジメントの観点から数を決める。		◎目指す児童生徒の姿
終末 ○分	9 決まったことの発表 10 話合いの振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉		◎目指す児童生徒の姿  評価の観点を明確にするために、評価規準に則して、本時の展開における「目指す児童の姿」を具体的に示します。

## ◆教師の手立ての記入例

次のような指導等の留意点について、具体的に記述する

□資料提示 □話し合いを深めるための助言 □計画委員への助言 □話し合いの隊形  
□視聴覚機器利用 等

※話し合いを進める際の留意点、予想される対立への対処法、合意形成に向けた意見の整理の仕方等について、計画委員会(企画委員会)で話し合い、記述しておく。

※本時の話し合いは、「何をするか」について話し合う場合と、前もって案を集めておいて「くらべ合う」段階から話し合う場合がある。どの段階から話し合いを始めるのか明確にすること

※よりよい合意形成を図るために、折り合いのつけ方を理解させ、まとめる段階で、折り合いのつけ方を考える活動を取り入れること

## 【折り合いの付け方】

- 多数意見でまとめていくことが基本
- それぞれの意見を合わせる
- いくつかの意見のよいところを取り入れ新しい意見をつくる
- 優先順位を付けて上位の意見に決める(今回は A, 次回は B)
- 条件を付けて賛成する
- 提案理由やめあてに基づき、なぜ(根拠)を大事にする。

※教師が話す内容について、具体的に記述する

- 合意形成したことへの価値付けや個人や集団への称賛
- 前回の話し合いと比べての変容についての称賛 ○今後の課題
- 計画委員へのねぎらい ○今後の見通しや実践に向けての意欲付け 等

## (3) 板書計画

「思考の可視化・操作化・構造化」の視点で、板書を計画する。

※別紙で大きく示してもよい

## 6 事後の指導と児童生徒の活動

日時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	◎めざす児童(生徒)の姿 (観点) 【評価方法】
○月○日(△) 帰りの会		友達と協力して自分の役割に責任をもって取り組むことができるよう児童生徒の活動や、教師の支援方法について記述する。	
○月○日(△) ～○日(△) 休み時間		児童生徒が、学級で合意形成して決めたことを実践し、ふり返り、お互いの頑張りや成長を認め合い、次へのステップにつながるよう、事後指導を充実させること。	
○月○日(△) □校時			

## 7 参考文献

その他、指導案作成に参考にした文献・資料等があれば記載する。

○みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)

平成30年12月 国立教育政策研究所教育課程研究センター

○学校文化を創る特別活動(中学校・高等学校編) 令和5年5月 国立教育政策研究所教育課程研究センター

第〇学年 学級活動学習指導案

題材の内容によって、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員、司書教諭、外部講師などの協力を得て指導すること  
も考えられる。

令和〇年〇月〇日〇校時  
〇〇□立〇〇□学校  
〇 年 〇 組 〇 名  
授業者 T1〇〇 〇〇  
授業者 T2〇〇 〇〇

【年間指導計画の位置付け 〇学年 〇月計画 P. 〇】

1 題材 「  
内容(2)

学習指導要領の位置づけを記入

2 題材について

(1) 児童(生徒)の実態

○題材に関する児童生徒や学級の実態を記述する。…「何が身についていて何が身についていないのか」「題材に係る事前の意識調査・アンケート・Q U・アセス等の概要」など  
○必要に応じて、各教科との関連を図った計画的な指導や、学年段階及び発達の段階に即した系統的な指導に関わる配慮事項についても記述する。

(2) 題材設定の理由

○児童(生徒)が自己の課題として真剣にとらえ、目標や方法などを意思決定できるように、児童観(生徒観)を踏まえ、この題材をどう指導していくかを記述する。  
○教師の構想(本時で目指す児童生徒や学級の変容等の概略・展開方針)・活動形態・指導内容の重点・道徳との関連などを記述する。

(3) 校内研修テーマとの関わり (2年研, 中堅研については個人のテーマとの関わりを記述する)

○ テーマへ本時の授業を通してどのように迫っていくのかを記述する

3 学級活動(2)の評価規準

○小学校は低・中・高の2学年ごと、中学校は学校として評価規準を設定する。

第〇学年及び第〇学年の評価規準 (←小学校)

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
※各学校の評価の観点・評価規準を記入する 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参照		

4 事前の指導と児童(生徒)の活動

日 時	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	◎めざす児童(生徒)の姿 【観点】(評価方法)
〇月〇日(△) (例) 帰りの会	アンケート調査を行うなどして、題材に対する学級の実態を捉えるとともに、題材に対する一人一人の問題意識を高める。		
〇月〇日(△) (例) 放課後			各内容に即した問題の状況や原因を理解するための各種の調査結果、解決の方法を理解するための必要な情報等を記入します。



## 5 本時の指導と児童生徒の活動

## (1) 本時のねらい

「本時のねらい」には、自他の関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかの指導のねらいを端的に記述します。

## (2) 本時の展開

過程	児童（生徒）の活動	指導上の留意点（○） （指導等があれば記載）	◎目指す児童（生徒）の姿 【評価の観点】〈評価方法〉
導入 ○分 つかむ	【つかむ】 1 題材について確認	適応や健康安全に関わる題材について、題材や本時の課題をつかみます。	◎目指す児童（生徒）の姿
	2 話合いのめあての確認		
	3 教師の話		
展開 ○分 さぐる・見つける	4 話合い 【さぐる】	問題の原因や解決する必要性などについてさぐります。	◎目指す児童（生徒）の姿
	【見つける】	みんなでよりよい解決方法や努力事項などについて出し合って見つけます。	
終末 ○分 決める	【決める】 5 意思決定	自己の課題を解決するために努力すべき具体的な個人目標（内容や方法など）を決め、実行への強い決意をもちます。	◎目指す児童（生徒）の姿
	6 話合いの振り返り		
	7 先生の話		

## 意思決定

一般的に、意思決定とは、ある目標達成のために諸手段を考察、分析し、その一つを選択決定する人間の認知的活動とされています。学級活動(2)、(3)では、児童は学級での話合いを通して、「つかむ→さぐる→みつける→きめる」の流れに沿って意思決定します。児童は題材について共通する課題を見だし、学級における話合いを通して、多様な視点から解決方法を見付け、自己の具体的な実践課題を決めて、粘り強く努力します。本時において児童一人一人が自分に合った具体的な実践目標を意思決定することができるようにするとともに、児童が自ら決めたことを実践して振り返り、自ら改善するための事後指導が重要です。

## (3) 板書計画

「思考の可視化・操作化・構造化」の視点で、板書計画を行う。  
※別紙で大きく示してもよい

## 6 事後の指導

日 時	児童（生徒）の活動	指導上の留意点と評価	資 料
○月○日(△) (例) 帰りの会	<div> <p>○定期的に振り返りの時間を設け、実践意欲の継続化を図ります。学年、学級だより等を通して家庭と連携し、日常生活での意識化を図れるよう計画する。</p> <p>○意思決定し、1週間実践したことの成果を自己評価したり友達と認め合ったりして、実感できるようにすることも考えられる。</p> </div>		

## 7 参考文献

その他、指導案作成に参考にした文献・資料等があれば記載する。

○みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）  
平成30年12月 国立教育政策研究所教育課程研究センター

○学校文化を創る特別活動（中学校・高等学校編）  
令和5年5月 国立教育政策研究所教育課程研究センター

第〇学年 学級活動学習指導案

令和〇年〇月〇日〇校時  
〇〇〇立〇〇〇〇学校  
〇 年 〇 組 〇 名  
授業者 T1 〇〇 〇〇  
授業者 T2 〇〇 〇〇

【年間指導計画の位置付け 4 学年 4 月計画 P. 〇】

1 題材 「  
内容 (3)

学習指導要領の位置づけを記入

題材の内容によって、外部講師などの協力を得て指導するようにする。

2 題材について

(1) 児童（生徒）の実態

○題材に関する児童生徒や学級の実態を記述する。  
(題材に係る事前の意識調査・アンケート・Q U・アセス等の概要など)

(2) 題材設定の理由

○児童（生徒）が自己の課題として真剣にとらえ、目標や方法などを意思決定できるように、学級生活における児童（生徒）の実態からこの題材を取り上げる必要性など、教師の児童観、題材観などについてまとめる。  
○必要に応じて、各教科との関連を図った計画的な指導や、学年段階及び発達の段階に即した系統的な指導に関わる配慮事項についても記述する。

(3) 校内研修テーマとの関わり （2 年研、中堅研等については個人のテーマとの関わりを記述する）

○ テーマへ本時の授業を通してどのように迫っていくのかを記述する

○小学校は低・中・高の2学年ごとに、中学校は学校として評価規準を設定する。

3 学級活動(3)の評価規準

第〇学年及び第〇学年の評価規準 (←小学校)

よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団の一員としての話し合い活動や実践活動を通じた思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
※各学校の評価の観点・評価規準を記入する。 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参照		

4 事前の指導と児童（生徒）の活動

日 時	児童（生徒）の活動	指導上の留意点	◎めざす児童（生徒）の姿 (評価の観点) 【評価方法】
〇月〇日 (△) (例) 帰りの会	アンケート調査を行うなどして、題材に対する学級の実態を捉えるとともに、題材に対する一人一人の問題意識を高める。		

## 5 本時の指導と児童生徒の活動

## (1) 本時のねらい

「本時のねらい」には、自他の関わりの中で、個人の課題を踏まえ、どのような意思決定ができるようにしたいのかの指導のねらいを端的に記述します。

## (2) 本時の展開

過程	児童（生徒）の活動	指導上の留意点	資料	◎めざす児童（生徒）の姿 （観点）【評価方法】
導入 ○分 つかむ	<b>【つかむ】</b> 1 題材について確認 2 話合いのめあての確認 3 教師の話	題材を自分事としてとらえ、将来と今のつながりや学習する意義などについての課題をつかみます。		◎目指す児童生徒の姿
展開 ○分 さぐる・見つける	4 話合い <b>【さぐる】</b> 5 話合い <b>【見つける】</b>	これまでの自分を振り返り、「なりたい自分」について自分の願いをもち、よさや可能性をさぐります。  ○話合い活動 みんなで「なりたい自分」を追求するためにできることなどを出し合って見つけます。		◎目指す児童生徒の姿
終末 ○分 決める	<b>【決める】</b> 5 意思決定 6 話合いの振り返り 7 先生の話	なりたい自分になるために、自分に合った具体的な個人目標（内容や方法など）を決め、実行への強い決意をもちます。  意思決定 一般的に、意思決定とは、ある目標達成のために諸手段を考察、分析し、その一つを選択決定する人間の認知的活動とされています。学級活動（2）、（3）では、児童は学級での話合いを通して、「つかむ→さぐる→みつける→きめる」の流れに沿って意思決定します。児童は題材について共通する課題を見だし、学級における話合いを通して、多様な視点から解決方法を見付け、自己の具体的な実践課題を決めて、粘り強く努力します。本時において児童一人一人が自分に合った具体的な実践目標を意思決定することができるようにするとともに、児童が自ら決めたことを実践して振り返り、自ら改善するための事後指導が重要です。		◎目指す児童生徒の姿

- ※課題の現状、事実などが学級の一人一人に共通する課題であることが理解できるようにする。
- ※アンケートや調査結果等を活用し、課題について改善の必要性を実感させ、自分自身の問題と捉えさせる。
- ※児童生徒の話合いや情報交換の場を設定し、友達の意見や教師の助言を参考にしながら、解決方法を考えさせるようにする。
- ※自分自身の課題を確認できるようにし、何をどのように努力したらよいかを考えて、より具体的な意思決定ができるようにする。
- ◆指導上の留意点(教師の手立て)や資料を具体的に記述する
- どのような資料掲示をするのか      □事前アンケートの内容      □学習形態
- 視聴覚機器利用    等
- ※目指す児童生徒の姿と評価方法
- 「学級活動(3)の評価規準」を踏まえ、本時の展開における「目指す児童生徒の姿」を具体的に記述する。
- ※どのような方法で見とるかを記述する。
- 〈観察〉〈学級活動ノート〉〈振り返りカード〉

### (3) 板書計画

「思考の可視化・操作化・構造化」の視点で、板書計画を行う。

※別紙で大きく示してもよい

## 6 事後の指導と児童生徒の活動

日 時	児童（生徒）の活動	指導上の留意点	◎目指す児童生徒の姿 (評価の観点) 【評価方法】
○月○日(△) (例) 帰りの会	○帰りの会などで定期的に振り返ったり、学年だよりや学級だよりなどを通して家庭と連携したりして、実践意欲の継続化を図るようにします。 ○児童自らが記録と蓄積を行い、振り返ることで、新たな生活や学習への目標や、将来の生き方などについて記録していけるようにします。		

## 7 参考文献

その他、指導案作成に参考にした文献・資料等があれば記載する。

○みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）  
平成30年12月 国立教育政策研究所教育課程研究センター

○学校文化を創る特別活動(中学校・高等学校編)  
令和5年5月 国立教育政策研究所教育課程研究センター